



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第 12 期生の選考を終えて

2019 年 4 月 7 日(日)午後、N 委員、E 委員及び私(樋口)の 3 名で、第 12 期奨学生の面接試験を行いました。そしてその結果、ブラジル(女子)、中国(男子および女子)にルーツをもつ高校生計 3 名を、奨学生として採用することに決定いたしました。

今回の応募者は計 6 名でした。うち 1 名は書面での申し込みはあったのですが、入学した高校で 4 月 6～8 日の期間、合宿があり、7 日の面接に参加できないことがわかったため、やむを得ず選考対象から外すことになりました(別の日に面接日を再設定することも検討しましたが、公平性等の観点から断念せざるを得ませんでした)。また、もう 1 名は添付資料漏れ(成績表の添付なし)及び高校・居住予定地がともに兵庫県外であるという理由で、不採用としました。

他の 4 名については、予定通り面接試験を行い、終了後、各審査委員が独自に採点した結果を照合し、上記 3 名の採用を決定いたしました。

今回採用に至らなかった 1 名は、これまでの審査基準に照らして、不適合があったわけではありません。ただ、他の 3 名に比べて、将来及び高校生活における目標が明確でなかったことに加え、家庭が(あくまでも相対的にですが)安定しており、本人が生活能力、環境適応力の高いタイプで、この奨学金の支えがなくても十分にやっていけそうに見受けられました。

それに比べて他の 3 名は、面接の際の受け答えを見るかぎり、将来及び高校生活における具体的目標が明確でした。また、経済的な困窮度が高く、他にもいろいろと困難を抱えており、当奨学金事業によるサポートが有効、かつその必要度も高いと判断される状況だと思われました。そのような状況を踏まえて審査委員間で意見交換を行い、形成した合意に基づいて、採用対象を決定した次第です。

今年度は昨年度に比べて、応募者の数は増えましたが、実はかつての奨学生と旧知の応募者が多く(それはそれで良いことですが)、それ以外のニーズを十分に掘り起こしきれていない可能性が依然としてあります。とはいえ、(たとえば)応募期間をもっと早い時期にすることも選択肢の一つですが、諸事情を考えると現状を簡単に動かすことはできないのが実情です。掘り起こしの方法については、継続的に検討していきたいと考えております。

今後とも当奨学金事業にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(実行委員長 樋口大祐)

奨学生からのメッセージ

R さん (12 期生)

1. 自己紹介

私の名前は R です。去年の 1 月に日本へ来ました。

家族は 4 人です。父さん、母さんと妹と私です。去年 4 月に日本の中学校に入りました。

最初日本語がぜんぜんわかりませんでしたから、少し大変でした。そして、日本語の勉強の教室に行っています。毎週 YWCA 学院も行っています。

一年間勉強しました。日本語が少しわかりますので、学校で全教科を一緒に懸命勉強しましたから私立高校と公立高校の試験に全部合格しました。うれしかったです。私の興味があることは、音楽を聴くことと本を読むことです。

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか

高校にはいりましたが社会と国語は日本語がわかりませんから、少し苦手です。でも、今から高校の三年間で勉強しますので、よい成績になりたいです。今、学校のバスケットボール部に入りました。そして三年間練習します。今後は一生懸命がんばります。そして良い大学に行きたいです。

3. 将来の夢

将来は AI の職業につきたいです。そして今理科と英語を一生懸命がんばります。

N さん (12 期生)

1. 自己紹介

私の名前は野見山真由美です。よろしくお願ひします。ルーツを持つ国はブラジルです。私の祖父母は日本人で、ブラジルに移住し、母がブラジルで生まれ、私は日本で生まれました。家族とは主にポルトガル語を交えながら会話していて仲良しです。中学校では、美術部に入っていて、部長をしていました。委員会是一年生の時に風紀委員に入っていました。高校は A 高等学校です。

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか

勉強では、数学と理科が苦手教科なので、克服できるように頑張りたいです。部活動は美術部に所属していて創作活動に積極的に取り組みたいです。ボランティア活動では私の塾を手伝いたいと考えています。通っている塾は外国にルーツのある子ども達に通っていて、人手不足なので、手伝いたいと思っています。

3. 将来の夢

将来の夢は、アニメ系のイラストレーターになることです。そのために絵を描く練習を毎日するようにしたいと思っています。進学したい大学は K 大学に進学したいと考えています。

S さん (12 期生)

1. 自己紹介

私の名前は S です。中国から来ました。中学校で頑張ったことは部活です。部活はバレーボール部に入っ

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか

高校では電気の勉強で頑張っていきたいと思います。4 年制の高校なので、頑張って高校を卒業したいと思います。仕事にもがんばりたいと思います。

3. 将来の夢

高校を卒業して電気科でとれる資格を取って電気の仕事をしたいと思います。

U さん (11 期生)

「5 年後の私」

私は五年後、保育士になりたいと思っています。

なぜこの職業に就きたいかという、中学生の時にワークキャンプというイベントがありそこで小さい子ども達とふれあったり話したり遊んだりする機会がありました。子ども達はすごく純粋で、自分自身たくさんの知識や気づきを得ることができ、それがとても楽しく思えたからです。そんな中で保育士の方々はただ優しく接するだけではなく、子どもが悪いことをしたら厳しく叱って正しい方向へと成長するようにサポートしていました。それを見てすごく尊敬しました。将来こうなろうという目標が自分の中できた一週間でした。

そのため、高校進学に際して、今通っている S 高校を選びました。私のコースは普通科ですが、その中でも保育のことを学べる保育科(プリスクールコース)が、短大と連携しており保育士の免許以外にも幼稚園、小学校でも働けるような資格がとれるコースになっています。

私は勉強がとても苦手でつまづくことが多いですが、絶対にこの高校を卒業したいと思います。そして短大へ進学して、将来の目標にしている保育士になってワークキャンプでのように子ども達とふれあい、遊んでいる自分のことを想像しながら苦手な勉強に対してもモチベーションをあげて今後も頑張っていこうと思っています。

近年社会問題になっている「待機児童問題」があります。それが原因で悲しい話ですが虐待によって子どもが死亡したりなどのケースもあるような気がします。その裏側には、長引く経済不況と女性の社会進出、待機児童の都市部への集中、施設環境、保育士の不足をいう様々な原因があります。私は少しでも自分も力になりたいという気持ちもあります。

五年後の私は子どもの気持ちを大切にできる明るい保育士になりたいと思っています。

そして、子ども達が保育園であったことを親に楽しそうに話すことができ、さらにみんなに誇れるような保育士になろうと思います。

A さん (11 期生)

「十年後の私」

十年後の私は得意な語学を活かして働いています。

そのために今できることはもっと語学力を向上させることです。それが大切だと思います。でも、今は具体的にしたい仕事が決まっていないので、どの教科やどの授業でも一生懸命になるのも大切です。また、勉強面だけではなく、人とどう接するかも 10 年後、仕事している自分にとって必要になってくると思います。例えば、笑顔で話をしたり、人の話をよく聴くことでコミュニケーション力がつきます。これらをすることで仕事の選択肢が広がり、広がることによって、今はまだ決まっていなくても自分にあった仕事を見つけられやすいと思います。

十年後の自分になるために現段階の自分に欠けているのはやる気と自分を信じる気持ちだと思います。

勉強も確かにがんばらないといけないですが、自分自身を変えていかないと必要な条件に満たないと思います。まず、私にとって一番難しいのがやる気を出すことです。やる気を出すためには行動に移さないとやる気が出ません。ですからこれからは「面倒臭い」や「だるい」と思う暇があるなら真っ先に勉強機に向かうことが大切だと思います。また、もう一つの自分を信じる、というのは精神的余裕を持つことが大切です。精神的余裕があればプラス思考になり、自然と自分に自信がつくようになります。ですから、これらを実行し、勉強の方も一生懸命していこうと思います。

内容がずれますが、今は百パーセントの力を振り絞っていないため、今できるのは語学だけです。他のことは見向きもしていません。でもどの教科もがんばることで得意分野が語学だけではなく、数学も得意になり、想像もしなかったインテリアデザイナーになっているかもしれません。つまり、私が言いたいのは、今は語学が得意だからそれだけをがんばって他のことを怠けるのは、あまり良いことだと言えず、怠けたことによって生活が安定しなくなるかもしれませんし、仕事にやりがいを感じられず仕方なく仕事をするハメになるかもしれないということです。私は仕事にやりがいを感じられないのは、とても嫌なので選択肢が幅広くなるように今ある時間を無駄にしないように努力します。

T さん (11 期生)

「10 年後の私」

私は、国際的に通用する看護師になることを目指して頑張っています。10 年後には、絶対に国家試験に合格して看護師として病院で働いていると思います。

例えば、姫路に住むベトナム人が心の寄り所としている姫路聖マリア病院の小児科の外来に勤務しているかもしれません。なぜその病院が頭に浮かんだかという、そこにはかつてインドシナ難民のための定住促進センターがあり、私の父が日本に来て定住するまでの間、日本の文化や習慣や日本語を学んだところだったからです。今では難民受け入れも終わりセンターは閉鎖されていますが、ベトナム人たちは、日本のふるさとと心の中で思い、カトリックの人たちは日曜のミサに集まります。そこにある聖マリア病院には、今でもベトナム人たちが診察に訪れています。

病院では、日本語が十分に話せないため医師や看護師の言うことが分からず困っている人が多くいます。

私の家族も病気になれば聖マリア病院に行きます。その時には私が通訳として同行しています。外来の診察室に入って診察を受ける時に、日本語で症状を的確に伝えることが両親にはできません。そんな時には、私が親に代わって医師や看護師に説明しなければならないのです。小さい妹の体調が悪くなった時に小児科の診察室で説明をしなければならなかったのに、上手くベトナム語で説明できず、かといって日本語でも説明できず困ったことがあります。その時に思ったことは、ベトナム語の理解出来る看護師がいてくれたらいいのということです。小さい子どもの体調はめまぐるしく変わります。一刻も猶予がありません。すぐに対応するためには、言葉が理解できるということは大切だと思います。他人をあてにしているダメなので、私が看護の知識を学び、ベトナム語ももっと話せるようになって 10 年後には聖マリア病院で働き、ベトナム人の患者さんの手助けになる看護師になりたいと思います。

N さん (10 期生)

「新学年の始まり」

時間が経つのは速いもので、去年の今頃は遠い未来のように感じていた三年生も、ついにやって来まし

た。平成も終わり、新しい年号になったり、大学受験の仕組みも変わろうとしていたり、様々な変化が身近な所で起こっています。そういった変化に取り残されず、自分も変わっていきけるようにしたいです。

今年で再び受験生になるわけですが、高校受験と違い、大学受験はとても厳しいと言われてます。周りの普段まじめな感じでない友人達もすき間時間があれば、単語帳を開いて暗記をしています。僕は少し出遅れてしまったので、それを取り返すためにもしっかりと切り替えて、受験生らしく過ごしたいと思いました。

他の新学年の決意は、怠惰に負けず、様々なことに挑戦していきたいと思います。学校での委員会活動にも、参加することがなかったので、積極的に活動したいです。他には、学校の文化祭での活動にも積極的に参加したいです。僕の学年は、劇をすることになっているので、主役とまではいかなくとも、舞台の上で楽しく活動できたらいいなと思います。こういったことを積み重ねていって、自分に何ができるのか、自分がどんなことを将来したいのかを探したいです。

僕の不安なことは、先ほどの文にも書いたことで、自分にどんなことができるのか、将来どうしたいのかがはっきりしていないことです。自分の得意なことを活かす、好きだと思ふことに力を入れるといったアドバイスは周りの人達から言われるのですが、それが何なのか分かっていないのが現状です。ですので、僕は考えてばかりでは仕方がないと思い、こういった決意表明をしました。努力を惜しまず、様々なことを諦めず、積み重ねることが大変でも、自分を甘やかさずに行動することを、これから始めようと思います。

V さん (10 期生)

「私にとって平和とは」

平和は戦争や内戦で社会が乱れていない状態だと思う人が多いでしょう。私もそう思いました。しかし、私が出場した全国高等学校少林寺拳法大会の弁論の部というプログラムがきっかけで私の平和についての考え方が変わりました。弁論の部とは、与えられた六つの課題の中から拳士が一つを選び、それについて自分の想いを述べる会です。その中で、東日本大震災が起こった時のある少年の話を知りました。避難場所の角に1人で座っていた少年を見かけた警察官が少年に話を聞きました。少年は七才で、家族全員がお亡くなりになったそうでした。少年が「教室の窓から学校に向かっていたお父さんの車が津波にのまれた瞬間を見て、お母さんも妹も助からなかっただろうと僕には分かりました。」と言いました。話を聞いた後、警察官は自分が持っている全部の食物を少年にあげようとしてました。しかし、少年は、僕よりもこれを必要としている人がたくさんいるだろうから」と警察官に断りました。家族全員がいなくなると、一人で生きていけないといけないという辛さや悲しさに包まれているのに、七才の少年は自分よりも他人の事を先に考えました。なんとすばらしくて美しい行動だろうと私は感動しました。

この少年のように私達も他人の事を思って行動することができたらもっといい世界になるのではないかと思います。他人の事を考える事によって人を傷つけるような行動をやめることが、戦争のない世界に繋がる大きな第一歩になると思います。

私にとって平和な世界とは戦争がない事以上に、みんなが他の人の事を考え、助け合いができる世界のようなものです。

K さん (10 期生)

「十年後の私はこうなりたい」

高校三年生に上がるにあたって、よく先生や親に「自分の目標は何？」と聞かれていました。今年、大学受

験を迎えるということで、普通は行きたい大学を聞かれていると思いますか、ある日父にもっと遠い未来の目標を聞かれました。

初めて、大学に入ってから、あるいは社会人になってからの自分を想像してみました。どんな大学に入るかは未定ですが、可能性が高いのは外大だろうと思います。在学中に自分が好きな外国語を学び、もしかしたら留学もするかもしれません。通訳になることはずいぶん昔からある考えです。両親に日本に連れて来られる前にもすでに何か国語も喋れる人はかっこいいなあと思っていましたし、その後日本語を学びはじめ、その時から私って、通訳になれるかもと考えました。

その思いを持ちながら高三になりました。いままでは、自分の目標に向かって努力したとは言えない高校生でしたけど、残りの時間で精一杯奮闘することを決意しました。

十年後は今よりも優しく、仕事場で人に迷惑をかけず、自立した人間になりたいです。そのために今から努力しなければならぬことも沢山あります。まずはよい習慣をつくることです。こまかい時間を使って単語を覚えたりする、電車の中でスマホを触るのではなく本を読むなりする。あるいは勉強の後に復習をすることを今から心掛けてすれば、十年後はきっとより多くの知識が身に付くでしょう。

もう一つ大切なことは目標を持つことだと思います。十年後こんな人になりたいというような大きい目標でもいいし、今年の中に英検 2 級をとるといような小さい目標でもいいです。心の中に目標があれば、疲れたときにもそれを思ってもうひと頑張りをする気を出せると思います。

今はどんな人間であっても、十年後はきっと変わります。もっとよくなるかあるいは思ったようにいかない、この2つの結果しかありません。自分がこれから後悔しないようにどのように生活していくのが一番大事です。

P さん (9 期生)

1. 高校を卒業して

高校三年間は本当に一瞬のように時間が過ぎ、現在無事に卒業することができました。フィリピン人である私がなぜ日本の高校に入学を決意したのか、その問いには様々な答えがあります。私には日本語という言葉の壁があるため母国に帰国をし、そこで高校を通うことが一番望ましいではないのかと親に言われたことがありました。しかし、私にはどうしてもこの日本という国で勉強がしたいという熱い思いがありました。日本は文化に溢れている国であり、外国人として過ごす事で周りから受ける母国に対する質問で、よりよく自分の国の文化を知り、また日本の文化に触れ続けられるので、互いの理解を得る事ができると思い私は日本の高校へ入学しました。

入学した高校では、国際科に所属し、そこでグローバル社会について深く勉強をする事ができました。世界は広く繋がっていること、世界で起きている問題、SDG's がなぜ大事なのか、世界の将来について考えさせてくれる機会を多く与えられ、とても恵まれた高校生活を送りました。自分で考えられる力をつけ、それをうまく相手に伝えるコミュニケーション能力またはプレゼンテーションスキルを養い、自分と全く違うバックグラウンドで育った海外から来た生徒たちと議論を行っていくことで高校生である自分のできることを考えさせてくれる機会となった三年間でした。

そのような高校生活を送ってきた私は将来の夢がわからないことに絶望を覚えました。人を助けたい、でもそのためには何を行なうべきなのか、またどのような仕事をするべきなのか。自分のことに全く興味がなく、将来のことで不安でした。そのような悩みを抱えていた私には周りの人々から『焦らずに、ゆっくり決めることが大事。人生はダッシュではなくマラソンだから』その言葉に心を揺さぶられ不安が消えました。残りの高校生活で私は自分に興味を持ち、好き嫌いを理解しながら、今までに挑戦したことのないことにも挑戦を始めました。自分が思っている以上に世界は広いので、まだまだ自分に合う将来の夢をこれから見つけていくことを目標にしています。

大学受験では失敗しましたが、失敗だと思えない結果です。浪人生ではありますが、決してそれが悪いことではないこと、自分は何がしたいのか見つけ、浪人するこの時間で自分はどれだけ変われるのかが勝負だ

と信じています。日本で高校生活を過ごせたことで私の人生は変わりました。周りに対して言葉にできないほど感謝をしています。

2. 今後の進路について

大学受験では自分の思うような結果にはならず、残念でしたが、この時間を使い、次の受験に向けてがんばっていきたくて考えています。また目標は大学に行くことだけではなく、勉強と共に趣味である動画関係とファッションについてもこれからがんばり続けたいと思います。今後の生活は関西ではなく、関東で過ごすことになりましたので、また新しい環境になると思いますが、体調管理も忘れずに、これからの生活を目標に向かっていきたいと思っています。

3. 奨学金の使い道について

私は高校での費用のために奨学金を使用し、親と離れて暮らしをしていた時は生活費としてご飯の買い出し用などとして使用しました。大学受験に必要な受験料、検定料、交通費にも奨学金を使用しました。大事なお金だったので、お金の管理として、必要な時以外使用しないようにしていました。

4. 後輩へのメッセージ

私は高校で多くミスをしてしまったことも少なくはありません。それでも高校はいい思い出になりました。それは自分のやりたいことや自分のためにやりたいことに周りを気にせず取り組んだからです。自分の人生なので人に合わせず、言われたからやるのではなく、やりたいことをどんどんやっていってください。このチャンスを見逃さないでください。若いうちにできることをどんどんやり、時には失敗し、時には成功してください。人生は自分の心地よい居場所で過ごすことはもったいないです。これからも挑戦していきましょう。応援しています。

K さん (9 期生)

1. 高校を卒業して

3 年生の時の文化祭が一番の思い出です。自分達でステージに立ち、会場を盛り上げることが出来たからです。

僕は 3 年間担任の先生が同じ先生だったので悩み事や進路のことについて気軽に相談できたのでよかったです。担任の先生には感謝しかありません。

また、部活の仲間と充実した 3 年間を送る事ができ、とても楽しかったです。

ここでの活動も刺激的で初めてのことや人前でしゃべることも有って不安もあったけど、今思えばとてもいい経験でした。

2. 今後の進路について

産業技術短期大学に入学し、そこで機械のことを学び編入、もしくは就職に役立てていきたい。

3. 奨学金の使い道について

3 年間奨学金を使わず、ずっと貯めて大学の入学金に使いました。

4. 後輩へのメッセージ

高校生の間はやりたいことにチャレンジしていきましょう。そして後悔しないように。

G さん (9 期生)

1. 高校を卒業して

私は高校を卒業し自分の夢である看護師への第一歩をこの春踏み出すことになりました。A 看護専門学校に合格したのです。ここまでの道のりは大変でした。

小学校2年生でベトナムから日本に来て、日本の文化や習慣や言葉が分からず、将来に夢や希望が持てず、とても不安でした。

小学校の時には、パティシエになりたいと 1/2 成人式で言っていたことを懐かしく思い出します。しかし、現実はそのなにごくありませんでした。中学生になって現実の厳しさを知り、J 町補習教室で勉強し自分の進路は自分で切り開くしかないと思いました。高校進学も悩み、H 高校を選びましたが、看護師になるという目標を定め、がんばってきました。

高校3年生の夏に進路決定をしないといけなくなりましたが、行きたいところに行けるかどうかは、正直言って不安でした。夏の三者面談では、担任の先生に「よほどがんばらないと通える所にはいけへんで。」と言われた時には、県外の学校を探して行くしかないと覚悟しました。看護受験対策の塾にも通って、出来る限りのことをしました。母や周りの人たちには県外の学校を推薦で受験した方が安心だといわれたけど、学費が高く母に負担をかけることはできないと思って、家から通える A 看護専門学校に懸けました。受験までの間は、勉強だけではなく面接や礼儀作法などくり返し練習しました。自分一人だったらあきらめていたかもしれませんが、城東町補習教室の先生方の応援のお陰で 120 人中約 10 人しか推薦で合格できない所に合格することができました。日本に来て本当によかったと思います。来日して 10 年で夢を見つけ確実に身近なものにすることができました。

どんなことがあってもあきらめずに夢を追い続けることの大切さを今私は感じています。応援して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

2. 今後の進路について

看護専門学校。3 年後の国家試験に合格できるようにする。

3. 奨学金の使い道について

高校3年生の春にずっと貯めていた奨学金を全部看護受験対策の塾に使わせていただきました。

4. 後輩へのメッセージ

自分の進路に悩みや迷いがあつた時は一人で抱え込まずに周りの大人たちにすぐ相談すること！！

模試の結果がすべてじゃない。

私が受験前に受けた模試の結果は下から数えた方が早かった。

その上行きたい所もどこもE判定で先生からは「もう無理やで」とまで言われた。担任にも指定校推薦をすすめられたが、私は自分を信じて断った。そしたら2校に受かることができた。その内の1校は通える範囲で自分の一番行きたい所でした。

みなさんも自分を信じてあきらめずに頑張ってください。